

## 会員交流会 参加者の感想

2022年 7月24日(日)

14:00—16:00

NPO 人にやさしい色づかいをすすめる会

- ・ バレーコートの色の話、色弱当事者からしても、赤だの緑だの黄緑だの、、、 横から見ているとおかしな議論してますね。我が家でも、よくこんな話をしています。。
- ・ 色相環の色再現ができない話、すごく理解できます。  
絵を描くときに、絵具で見た目の色を作ることが全然できないのと似ていますが、  
絵は自由な色使えますが、色相環はそんなわけにはいかないの、助けてくれた友人にホント感謝でしょうね。
- ・ 今回、いろいろな年齢層、職種の方のお話を聞くことができました。
- ・ 一昔では、就けなかった職種で活躍されている方もみえて、色弱者へのハードルも少し下がってきたのかなと感じました。
- ・ 参加者皆様の体験談には思わず「あるある、そうそう」と共感できたことは嬉しくもありました。
- ・ 「カラフルなバレーコート」...バレーコートは現在、こんな感じなんですね。シミュレーション画像とともに、拝見しましたが、視覚からの情報、聴覚の情報で、何がどの色なのか？何が正解なのか？わからなくなりました...(笑)いずれにしても、色が氾濫しているな～と感じた次第です。
- ・ 「補正眼鏡の色見本」...こちらは、諸説あり昔、聞いたことが、日本が一番、色名数があるそうです。今回、お見せいただいた色見本も、大変興味深かったです。フィルターを通した場合の違いにもびっくりしました。ただ、私個人の思い描いている色と「色名」と比べると、ギャップを感じられたのは色とは何か？感じてしまいました。
- ・ 「カラーランドセル」...皆さんは「何色じゃないですか？」とおっしゃってましたが、これは何色？と言われれば、私は答えられなかったですね。
- ・ あらためて、私は色に対して、恐怖心を持っていると思います。本当の色の答えを探すために、また、不正解を恐れるがために、発言に躊躇していたと思います。
- ・ 最後に伊賀顧問が、ぬり絵で「感じた色を置く」とおっしゃっていたことが、なるほどと思った次第です。
- ・ 色弱当事者様の親御さんのメッセージの感想ですが、当事者(息子さん)が目標とされていた

職種で不採用で、色弱が一因であった可能性は無いとは言えないと思いました。確かに職種によっては、人の命にかかわる職種など制限はありますからね。当事者(息子さん)が、納得して別の道で人生を歩んでおられるのなら、また、ご両親に恨みをもっていなければ幸いです。私の時代は、職種の選択肢はなく求人も「色盲不可」ばかり、希望職種を受けることもできず...両親を恨み続けたものです。色弱に対して興味、理解をもっておられる色弱当事者様の親御さんのお子様に対する愛情を感じました。

- ・ 今回の皆様のお話を拝聴しまして、どの色覚タイプの方でも、生まれた時から(色覚を認識するようになってから)今日までずっと同じ見え方で、それがその方にとっては当たり前のことだということを常に頭に入れておく必要があるのだと改めて思いました。
- ・ 黄色のランドセルの事例では同じ C 型でも脳内で捉えている色が違うことを痛感しました。黄色の定義の感覚も人により様々ですね^^
- ・ 後半に伊賀顧問が触れていらっしゃいましたがダルトンメガネなどのツールは、わたしたち人間が通常見えない紫外線や赤外線を経験する機械を通して調べることと同じなのだというお話が大変わかりやすく勉強になりました。
- ・ 伊賀顧問の(色彩の)教科書のお話は、今後の子どもたちのためにも大変しみなお話ですね。今まで色弱の方からお聞きする中で(今日の参加者の方でもいらっしゃいましたが)子供の頃が大変だったというお話をお聞きしますし、さまざまなことを学び吸収する時期の子どもたちにとって、とても支えになるのではないかと期待しております。伊賀顧問の仰るように色名が大切ではないという考え方に、僭越ながら私も強く共感いたします。
- ・ 色のことがわかる人たち(色弱の人たち)が入ってきて心強いです。
- ・ 多様な色覚の人が、色について、あるいは見え方について話し合うと、毎回多くの気づきがあります。今回は「色名」に関する話題が多くありました。私たちは、色について語る時、色の名前を使ってコミュニケーションを図ることが多いのですが、色の名前は、多様な色覚に共通ではないことを意識する必要があると、改めて感じました。ではどうやって多様な色覚を持つ人たちがお互いの見え方を理解し合えるか、色の概念を共有する方法は？大きな課題です。
- ・ オンラインで色の見え方を語るには、各自のディスプレイや照明環境も異なるため限界がありますが、会員交流会は楽しいです。今回は残念でしたが、次回は対面形式でできることを願っています。
- ・ ある色を見て、それぞれの見え方・感じ方を自由に語り合い、色覚タイプによる違いを知ること

はとても楽しいものです。今回、ZOOM ではそれが難しいことを実感しました。ディスプレイ上の色は同一ではないので、見え方の議論を深めようがないわけです。それが残念でした。次回も ZOOM 開催の場合は、そこを意識して話題提供で使う資料のあり方を考えたい。

以上